

「だがし屋さん」

豊川市立一宮東部小学校 四年

佐藤 琥珀

夏休みに、お母さんが前に働いていたところへ行きました。そこでは、しょうがいのあるひとたちが、仕事をするために通っています。春休みや夏休みになると、そこでだやし屋をやっています。ぼくはおかしが好きだから、今まで何回もお母さんと買い物に行っています。

まず、中に入るとしよく員さんとり用者さんが元気に

「いらっしやいませ。」

と言ってくれます。そしてぼくに買い物かごをわたしてくれます。おかしをえらんでレジに持って行くと、しよく員さんが計算したおかしを、り用者さんがふくろに入れてくれます。そしてぼくに、

「ありがとうございます。」

と言つてふくろをわたしてくれました。

り用者さん達は、仕事をしていない時は、部屋の中を歩いたり、ひとり言を言ったりしています。だけど、仕事になると、しよく員さん達といっしょに、しんけんに仕事をしていました。

ぼくは、かけ算の筆算がきらいです。宿題にでると、めんどくさくて、やりたくなくておこれてしまいます。そんな時は、お母さんにとなりに来てもらつて、みてもらいながらやります。

しょうがいがあつて、働いている人も、しよく員さんにとなりに助けてもらいながら仕事をしています。ぼくと共通点があるんだなと思いました。それをお母さんと話したら、

「しょうがいがあつてもなくても、苦手なことはあるし、それぞれとくいなこともある。少しの手助けで、いろんな事ができるようになるんだよ。」  
と言っていました。

夏休み前の日記で、二学期にがんばりたいことを、

「なんでもぜったいにあきらめないこと」

と書きました。そして、この体けんで、こまっっている人や友だちに気づいて、助けてあげたいという想